

ベトナム研修旅行記

2013年11月12日～18日 in ベトナム ホーチミン市

小林研究室 M1 河内 智

ベトナムでは、最初に見学したのはタン・トゥアン輸出加工区でした。この工業地帯にあるルネサスベトナムの会社説明や会社見学を通して、日本の企業がベトナムに設計会社を設立する理由や、従業員の環境などさまざまなことを見ることができました。さらに、このタン・トゥアン輸出加工区を立ち上げたタン・トゥアン工業開発会社の説明を聞くことで、この輸出加工区の詳細や将来像などを知ることができました。

タン・トゥアン社訪問後は、ホーチミン工科大学の訪問をさせていただきました。大学の紹介を聞いた後、実際に実験室等を見せていただき、大学の雰囲気を感じることができました。また、大学内の設備も非常に充実しており、学生の工学分野への意欲やモチベーションを感じることができました。



また、ホーチミン技術師範大学の訪問でも、ホーチミン工科大学と同様に大学紹介を聞き、実際に実験室、研究室等を見させていただきました。各実験室にオムロン社や GE 社などの名前が提示されていて、大学と企業間で協力し、新たな人財開発の努力を感じました。



観光では、偶然ジャパンフェスティバルが開催されていたのでそれに参加しました。日本の食文化や伝統文化を中心にお祭りをやっているのだと思い参加しましたが、内容は日本のアニメーションやアイドルを中心としたイベントで非常に驚きました。イベント会場を歩いているだけでも、現地の方が日本語で話しかけてきたり、日本についての質問をしてきたりと、ベトナムの人々が日本に高い関心を持っているということを肌で感じることができました。



日本語で話しかけてくれるベトナムの方に日本語をどのくらい勉強をしているか尋ねたところ、独学で2、3ヶ月くらいと答えてくれました。中学時代から英語を勉強し続けているのにもかかわらず、英語力がほとんど身につけていない自分が情けなくなりましたが、いろいろな人と話しているうちに、彼らと自分の違いがわかってきました。それは、考えてみれば当然のことですが、相手の国に対する関心がどれだけあるかということだと思います。自分の世界に対する関心は日本内に留まってしまっており、海外へ視野が広がったことがあまり無かったことと思います。したがって、ただただ英語を勉強するだけでモチベーションとなるものは一切ありませんでした。しかし彼らは日本に高い関心を持ち、「日本へ行きたい」「日本で働きたい」などと強いモチベーションを持っていたのです。自分も今回の旅行を経て、ベトナムの文化へ知識・関心が深まっただけでなく、「もっと他国についても関心を深めたい」「もっといろいろな文化の人と交流してみたい」という意欲がわきました。

今回の旅行を経て、海外に関しての興味がでてきたということだけで、自分の視野が広がった気がします。もっと異文化に触れたい、いろいろな人々と交流したいというこの気持ちをモチベーションにし、さらにいろいろなことに取り組んでいきたいと思います。

6日間という長いようで短い期間の旅行でしたが、楽しかった、良い思い出になったということだけではなく、自分の興味関心へも影響を与える素晴らしい旅行だったと思います。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

次のポスター発表を行いました。

Satoru Kawachi, Daiki Oki, Congbing Li, Masataka Kamiyama, Seiichi Banba, Toru Dan, Nobuo Takahashi, Koji Sakata, Haruo Kobayashi, Nobukazu Takai, “A Power-Efficient Noise Canceling Technique Using Signal-Suppression Feed-forward for Wideband LNAs,”
The 4th IEICE International Conference on Integrated Circuits Design and Verification, Ho Chi Minh City, Vietnam (Nov. 15-16, 2013).

